

# 中華人民共和國農業標準

NY/T 2424-2013

## 植物新品種の区別性、均一性、安定性 に関する審査基準 りんご

Guidelines for the conduct of tests for  
distinctness, uniformity and stability-

Apple

(*Malus domestica* Borkh.)

(UPOV : TG/14/9, Guidelines for the conduct of tests for  
distinctness, uniformity  
and stability-Apple, NEQ)

2013-09-10 発表

2014-01-01 実施

---

中華人民共和國農業部

## 目 次

### 序文

- 1 対象
  - 2 規範性の引用文献
  - 3 専門用語及び定義
  - 4 符号
  - 5 種苗に関する要求
  - 6 測定方法
  - 7 区別性、均一性、安定性の結果に関する判定
  - 8 特性表
  - 9 グループ分けの形質
  - 10 特性調査表
- 附録 A（規範性附録）りんご形質一覧表  
附録 B（規範性附録）りんご形質一覧表の解釈  
附録 C（規範性附録）りんご特性調査表

## 序 文

本標準は GB/T 1.1-2009 の規則に基づいて起草されたものである。

本標準は改めて起草する方法で、国際植物新品種保護連盟 (UPOV) ガイドライン「TG/14/9 Guidelines for the conduct of tests for distinctness, uniformity and stability-Apple (Malus domestica Borkh.)」を修正し、採用した。

本標準は UPOV ガイドライン TG/14/9 に対応する。本標準は TG/14/9 との一致性程度は非同等である。

本標準は UPOV ガイドライン TG/14/9 と比べれば、技術的な差異が存在する。主な差異は次にあげるとおりである：

——「花：花卉の形」、「葉：姿」、「果実：最大幅の位置」、「果実：がくの開閉」、「果実：蜜の多少」、「果実：果心の大きさ」、「果実：果肉の硬さ」、「果実：溶解可能な塊含有量」、「果実：滴定酸度 (Titratable acidity) の含有量」、「自花結実率」という十つの選択可能な形質を追加した；

——「樹体：結実枝の型」、「一年生枝：色」、「葉：裏面の毛じ」、「葉：葉柄のアントシアニン着色の広がり」、「花：雄ずいに対する柱頭の位置」、「果実：幼果のアントシアニン着色の広がり」という六つの形質を削除した；

——「樹体：樹勢」、「1年枝：太さ」、「1年枝：毛じの粗密」、「花：花冠の直径」、「葉：長さ」、「葉：色」、「葉：周縁の鋸歯の形」、「果実：果皮を被う色の型」という8つの形質の記述状態、又は形質名を調整した。

本標準は農業部科学技術教育司により提出された。

本標準は全国植物新品種テスト標準化技術委員会 (SAC/TC 277) により管理される。

本標準の作成に参加した団体：北京市農林科学院林業果樹研究所、西北農林科学技術大学、農業部科学技術発展センター。

本標準の主な作成者：・ 佩華、高華、程存剛、李碩碧、王強、楊江龍、王昆、康国・ 。

# 植物新品種の区別性、均一性、安定性の測定ガイドライン

## りんご

### 1 対象

本標準はりんご新品種の区別性、均一性、安定性の測定技術要求と結果判定の一般的な原則を規定した。

本標準はりんご (*Malus domestica* Borkh.) 新品種の区別性、均一性、安定性の測定及び結果判定に適用する。

### 2 規範性の引用文献

次に挙げる文献は本標準の応用にとって不可欠のものである。期日を注釈した引用文献について、期日を注釈したバージョンのみが本標準に適用する。期日を注釈しない引用文献について、その最新バージョン（すべての更新履歴を含む）は本標準に適用する。

GB 9847 りんご苗木

GB/T 12293 果物、野菜製品の滴定酸度(Titratable acidity)の測定

GB/T 12295 果物、野菜製品の溶解可能塊含有量の測定

GB/T 19557.1 植物新品種区別性、均一性、安定性の測定ガイドライン 総則

### 3 専門用語及び定義

GB/T 19557.1 で決めたモノ、及び次にあげる専門用語と定義は本標準に適用する。

#### 3.1 群体測定 single measurement of a group of plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、テストを行い、グループとして測定記録を獲得する。

#### 3.2 個体測定 measurement of a number of individual plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、テストを行い、個体毎の測定記録を獲得する。

#### 3.3 群体調査 visual assessment by a single observation of a group of plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、調査を行い、グループとして調査記録を獲得する。

#### 3.4 個体調査 visual assessment by observation of individual plants or parts of plants

一ロットの植物体又は植物体のある器官又は一部に対し、調査を行い、個体毎の調査記録を獲得する。

### 4 符号

次にあげる符号は本標準に適用する。

MG：植物体あるいは植物体の一部を集団として測定記録

MS：植物体あるいは植物体の一部の個々の測定記録

VG：植物体あるいは植物体の一部を集団として調査記録

VS：植物体あるいは植物体の一部の個々の調査記録

QL：質的形質

QN：量的形質

PQ：擬似の質的形質

\*：印を標記した形質は、UPOV が品種の記述のために、統一して使っている重要な性状である。すべての UPOV メンバーはこれらの形質を使用しなければならない。環境条件の制限で、形質を測定できない場合を除く。

(a)～(d)：標記された内容について、詳しくは B.2 を参照ください。

(+)：標記された内容について、詳しくは B.3 を参照ください。

—：本標準において、アンダーラインは形質を測定する適用範囲を特別に提示するものである。

## 5 種苗に関する要求

5.1 種苗は苗木又は接ぎ穂の形で提供される。

5.2 出願者が苗木の休眠期に少なくとも 15 株の成熟した苗を提出しなければならない。又は接ぎ枝期や接ぎ芽期に、15 株の木を繁殖できるほどの接ぎ穂を提出する。

5.3 種苗として提出された苗木の質量は GB9847 に規定された一級苗の要求に合致しなければならない。健全で、活力に満ち、病害虫に汚染されていない接ぎ穂であること。

5.4 提出する種苗について、通常では、正常的に品種形質を表現することに影響するほどの処理を行わないこと。すでに処理された場合、詳しい説明を提供すること。

5.5 提出する種苗は中国植物検疫に関する規定に合致しなければならない。

## 6 測定方法

6.1 測定周期

測定周期は少なくとも二年間の生育周期である。且つそれぞれの年間生育周期が終わる前に、正常な果実ができるはず。りんごの初めての生育周期とは、芽が出て、開花し、果実が成熟になり、休眠期に入り、休眠期完了までの全部の生育季節とのこと。

6.2 測定地

測定は通常では同一の場所で行われる。当地点ではある形質を十分に表すことができない場合、他の条件に符合する場所で調査を行うことができる。

6.3 栽培試験

6.3.1 試験の設計

出願品種と類似品種を隣接して栽培する。応用する台木は一致しなければならない。交配で育成された品種について、測定毎に少なくとも 5 本の木を栽培や接ぎ木をしなければならない。突然変異の品種について、測定毎に、少なくとも 10 本を栽培や接ぎ木をしなければならない。

6.3.2 栽培管理

当地の通常の生育管理方法で管理する。

6.4 形質調査

6.4.1 調査の時期

表 A.1 及び表 A.2 にリストアップされた生育段階に従って形質調査を行う。生育段階に関する記述は表 B.1 を参照ください。

#### 6.4.2 調査方法

表 A.1 及び表 A.2 に規定された調査方法 (VG、VS、MG、MS) によって、形質調査を行う。一部の形質の調査方法について、B.2 及び B.3 を参照ください。

#### 6.4.3 調査数量

交配で育成された品種の調査は、少なくとも 5 本の木をグループとして行う。突然変異で育成された品種の調査は、少なくとも 10 本の木をグループとして行う。植物体の器官や部分を観測する際に、各植物体から取ったサンプルは少なくとも 2 個である。

#### 6.5 追加測定

必要の場合、表 A.2 の形質または本標準でリストアップされていない形質を選択し、追加測定を行う。

### 7 区別性、均一性、安定性の結果に関する判定

#### 7.1 全体的な原則

区別性、均一性、安定性の判定は GB/T 19557.1 によって確定された原則で行われる。

#### 7.2 区別性の判定

出願品種は明らかにすべての既存品種と区別しなければならない。測定で、出願品種が少なくとも一つの形質について、類似品種と明らかで再現できる差異が存在する場合、出願品種が区別性を有すると判定できる。

#### 7.3 均一性の判定

交配で育成された品種について、均一性の判定を行う場合、1%の群体標準と少なくとも 95%の許容率を採用する。試験用の個体数は 5 本の場合、許容される異型個体数は 1 である。

突然変異で育成された品種について、均一性の判定を行う場合、2%の群体標準と少なくとも 95%の許容率を採用する。試験用の個体数は 10 本の場合、許容される異型個体数は 1 である。

#### 7.4 安定性の判定

一の品種に均一性を有するなら、当品種に安定性を有すると判定できる。通常では、安定性について、測定を行わない。

必要な場合、該当品種の次世代の種苗を栽培して、前に提供した種苗と比べ、形質に明らかな変化がなければ、該当品種が安定性を有すると判定できる。

### 8 特性表

測定の必要によって、形質は基本形質と選択可能形質に分ける。基本形質とは、測定に必ず使用する形質である。基本形質について、表 A.1 を参照ください。選択可能形質について、表 A.2 を参照ください。

#### 8.1 要約

特性表において、形質、分類、状態及び対応の階級及び標準品種、調査時期と方法などの内容をリストアップした。

#### 8.2 分類

特性の表す方式によって、形質は質的形質、擬似的質的形質及び量的形質という三つのタイプに分けている。

#### 8.3 状態及び対応の階級

8.3.1 形質の定義と記述の規範のため、各形質は一連の状態に分けている。データの記録、処理、品種記述の作成及び交流のため、各状態が相応の階級を有する。

8.3.2 質的形質と擬似の質的形質について、すべての状態は測定ガイドラインで記述しなければならない：量的形質について、特性表の長さを縮めるため、偶数の階級の状態をリストアップしなくてもかまわない。偶数の階級の状態について、前の状態から次の状態への形で表現できる。

#### 8.4 標準品種

関連の形質のそれぞれの状態を確定するため、環境の原因で引き起こした差異を修正するため、特性表に、一部の形質状態について、参考できる標準品種をリストアップした。

### 9 グループ分けの形質

本標準におけるグループ分けに使用する形質

- a) 開花始期（表 A.1 の形質 9）
- b) 果実：質量（表 A.1 の形質 21）
- c) 果実：果皮の地色（表 A.1 の形質 40）
- d) 果実：果皮を被う色（表 A.1 の形質 42）
- e) 果実：果皮を被う色の型（表 A.1 の形質 44）
- f) 成熟期（表 A.1 の形質 56）

### 10 特性調査表

出願人は附録 C のフォーマットでりんごの特性調査表を記入する。

附録 A  
(規範性附録)

りんご形質一覧表

A.1 りんごの基本形質

表 A.1 りんごの基本形質一覧表

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
1	樹体：樹勢 QN (a) (+)	00 VG	弱 中 強	新紅星 金冠 秦冠	3 5 7
2	*樹体：樹の型 QL (a)	00 VG	円柱型 分枝型	威賽克旭 秦冠	1 2
3	樹体：樹姿（分枝型 品種に限る。） QN (a) (+)	00 VG	直立 開張 下向 枝垂れ	格勒斯特 千秋 国光	1 2 3 4
4	1年枝：太さ QN (a)	00 MS	細 中 太	祝 国光 紅星	3 5 7
5	*1年枝：節間長 QN (a)	00 MS	極短 短 中 長	威賽克旭 簡苹果 喬納金 金冠	1 3 5 7
6	1年枝：毛じの粗密 QN (a)	00 VG	無又は極粗 中 密	金冠 秋錦	1 3 5
7	*1年枝：皮目の多少 QN (a)	00 VG	少 中 多	橘苹 陸奥	3 5 7
8	*つぼみの色 PQ (b) (+)	10 VG	白 黄桃 淡桃 濃桃 赤 濃赤 紫	山荊子 祝 甜黄魁 喬納金 元帥 皮諾瓦 光輝	1 2 3 4 5 6 7

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
9	開花始期 QN (+)	11 MG	極早	安娜 (Anna)	1
			早	金花	3
			中	金冠	5
			晩	国光	7
			極晩	冬国光	9
10	*花：花冠の直径 QN (b)	12 MS	小	橘萃 喬納金	3
			中		5
			大		7
11	*花：花弁の重なり QN (b) (+)	12 VG	離れる	倭錦	1
			中間	元帥	2
			重なる	祝	3
12	花：花弁の形 PQ (b) (+)	12 VG	円形	祝 恵	1
			卵円形		2
			扁球形		3
13	*葉：葉身の向き QN (c) (+)	20 VG	上向	祝	1
			水平	伏錦	2
			下向		3
14	*葉：長さ QN (c)	20 MS	短	祝	3
			中	橘萃	5
			長	喬納金	7
15	*葉：幅	20 MS	狭	橘萃	3
			中	喬納金	5
			広	早生赤	7
16	*葉：長さ／幅	20 MS	小	喬納金 奥州青萃	3
			中		5
			大		7
17	葉：色 PQ (c)	20 VG	淡緑	珊夏	1
			緑	国光	2
			濃緑		3
			紫赤		4
18	葉：周縁の鋸歯の形 QL (c) (+)	20 VG	鈍鋸歯	紅玉	1
			鋭鋸歯	喬納金	2
			複鋭鋸歯		3
19	*葉：葉柄の長さ QN (c)	20 MS	短	喬納金	3
			中	奥州青萃	5
			長		7

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
20	葉：姿 PQ (c) (+)	20 VS	上に湾曲 平面 下に湾曲 波状	喬納金	1
				新紅星	2
				伏錦	3
				橘萃	4
21	*果実：質量 QN	40 MS	極軽 軽 中 重 極重	乙女	1
				国光	3
				橘萃	5
				陸奥	7
22	*果実：長さ	40 MS	短 中 長	萌	3
				富士	5
				陸奥	7
23	*果実：幅 QN	MS	小 中 大	国光	3
				金冠	5
				世界一	7
24	*果実：長さ／幅 QN	40 MS	極小 小 中 大 極大	国光	1
				新紅	3
				新紅星	5
				新紅星	7
25	果実：最大幅の位置 QN	40 VG	莖部に近い 中部 がく部に近い	喬納金	1
				艾達紅	2
				恩派尔	3
26	*果実：形 PQ (+)	40 VG	長円錐形 円錐形 短円錐形 球形 円筒形 楕円形 近円形 扁円形	伏帥	1
				新紅星	2
				赤陽	3
					4
					5
					6
				祝	7
				国光	8
27	果実：表面の角張りの強弱 QN	40 VG	無又は弱 中 強	喬納金	1
				金冠	2
				紅元帥	3
28	果実：頂の角張りの強弱 QN (+)	40 VG	無又は弱 中 強	喬納金	1
				陸奥	2
				紅元帥	3
29	*果実：がく穴の大きさ QN	40 VG	小 中 大	旭	3
				橘萃	5
				青バナナ	7

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
30	果実：がく片の長さ QN	40 VG	短	旭	3
			中	金冠	5
			長	嘎拉(Gala)	7
31	*果実：がくの開閉 QN (+)	40 VG	閉	玉霰	1
			半開張	橘萃	2
			完全に開張		3
32	*果実：がくあの深さ QN (d) (+)	40 VG	浅	国光	3
			中	金冠	5
			深	頂紅	7
33	*果実：がくあの幅 QN (d) (+)	40 VG	狭	秦冠	3
			中	国光	5
			広	旭	7
34	*果実：果柄の長さ QN (+)	40 MS	極短	旭	1
			短	橘萃	3
			中	国光	5
			長	紅冠	7
			極長	金冠	9
35	*果実：果柄の太さ QN	40 VG	細	金冠	3
			中	橘萃	5
			太	頂紅	7
36	*果実：梗あの深さ QN (d) (+)	40 VG	浅	旭	3
			中	国光	5
			深	秦冠	7
37	*果実：梗あの幅 QN (d) (+)	40 VG	狭	頂紅	3
			中	金冠	5
			広	旭	7
38	*果実：果粉の多少 QN (e)	40 VG	無又は少	金冠	1
			中	富士	2
			多	秋錦	3
39	果実：果皮のろう質 の多少 QN (e)	40 VG	無又は少	赤陽	1
			中	津軽	2
			多	喬納金	3

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
40	*果実：果皮の地色 PQ (e)	40 VG	不明瞭	金冠	1
			黄白		2
			黄		3
			緑白		4
			黄緑		橘萃 5
			緑		奥州青萃 6
41	*果実：果皮を被う色 の面積 QN (e)	40 VG	無又は極小	奥州青萃	1
			小	橘萃	3
			中	嘎拉(Gala)	5
			大	新世界	7
			極大	新紅星	9
42	*果実：果皮を被う色 QN (e)	40 VG	橙赤	紅玉 秋錦	1
			桃赤		2
			赤		3
			紫紅		4
			赤褐		5
43	*果実：果皮を被う色 の濃淡 QN (e)	40 VG	淡	津軽	3
			中	嘎拉(Gala)	5
			濃	新紅星	7
44	*果実：果皮を被う色 の型		全面着色	紅冠	1
			しま模様	国光	2
			しま模様を伴 った全面着色		3
					4
			斑点状着色		5
45	*果実：しまの幅 QN	40 VG	狭	皮諾瓦	3
			中		5
			広		7
46	*果実：梗あ周辺のさ びの量 QN (e)	40 VG	無又は小	津軽	1
			中	赤陽	2
			大	金冠	3
47	果実：果実のさびの 量 QN (e)	40 VG	無又は小	橘萃	1
			中		2
			大		3
48	*果実：がくあ周辺の さびの量 QN (e)	40 VG	無又は小	橘萃	1
			中		2
			大		3

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
49	果実：果点の数 QN (e)	40 VG	少	新紅星	3
			中		5
			多		7
50	果実：果点の大きさ QN (e)	40 VG	小	橘萃	3
			中		5
			大		7
51	*果実：果肉の硬さ QN (+)	40 MS	極軟	喬納金 橘萃 国光 印度	1
			軟		3
			中		5
			硬		7
			極硬		9
52	果実：蜜の多少 QN (+)	40 MG	少	新紅星 秋錦 津軽	3
			中		5
			多		7
53	*果実：果肉の色 PQ	40 VG	白	喬納金 橘萃 奥州青萃	1
			黄白		2
			淡黄		3
			淡緑		4
			淡桃		5
			淡赤		6
54	果実：果心の大きさ QN (+)	40 VG	小	喬納金 国光	3
			中		5
			大		7
55	*果実：子室の型 QN (+)	40 VG	閉	国光 金冠 旭	1
			中程度に開く		2
			広		3
56	*成熟期 QN (+)	40 MG	極早	甜黄魁 澤西美 金冠 富士 奥州青萃	1
			早		3
			中		5
			晩		7
			極晩		9
57	果実の発育期 QN (+)	40 MG	極短		1
			短		3
			中		5
			長		7
			極長		9

A.2 りんごの選択可能形質

表 A.2 を参照ください。

表 A.2 りんごの選択可能形質表

番号	形質	観測時期 と方法	状態	標準品種	階級
58	果実：果肉の硬さ PQ (+)	40 VG	極軟	黄魁	1
			軟		2
			中	津軽	3
			硬	国光	4
			極硬	印度	5
59	果実：溶解可能の塊 含有量 QN (+)	40 MG	極低	黄魁	1
			低	津軽	3
			中	新紅星	5
			高	金冠	7
			極高		9
60	果実：滴定酸度 (Titratable acidity)の含有量 QN (+)	40 MG	極低	印度	1
			低	新紅星	3
			中	喬納金	5
			高	奥州青苹	7
			極高		9
61	自花結実率 QN (+)	30 MG	低	元帥	3
			中	津軽	5
			高	秦冠	7

附録 B  
(規範性附録)

りんご形質一覽表の解釈

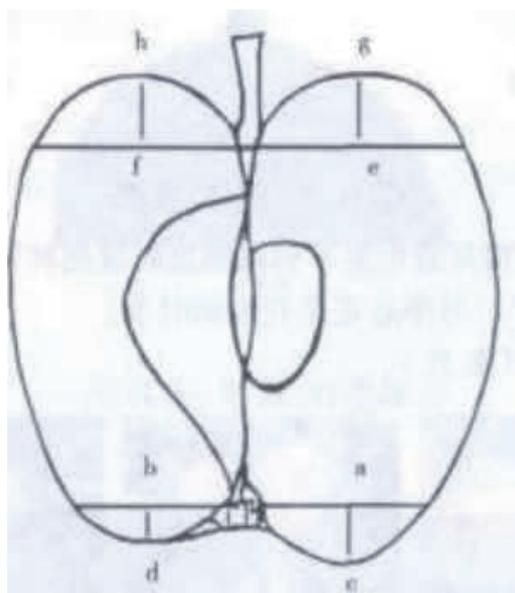
B.1 りんごの生育段階

表 B.1 りんごの生育段階一覽表

階級	名称	説明
00	休眠期	落葉期の後から発芽期までに
10	蕾期	蕾が現れるから 5%の中心の花が咲く時期まで
11	開花始期	全樹木の 5%の中心の花が咲く時期
12	満開期	全樹木の 75%の中心の花が咲く時期
20	春の梢の生長停止期	全樹木の 75%の春の梢が生長を停止する時期
30	生理的に果実が落ちる時期	花期が終わる後の 40d~60d
40	果実の成熟期	全樹木の 75%以上の果実が成熟する時期

B.2 複数の形質に関する解釈

- (a) 樹冠の外部から一年生枝の中部を切って調査する。株ごとに四つの方向から樹冠外部の一年生枝を取る。
- (b) 樹冠外部の短い枝の中心花を調査する。株ごとに 4 枚の花を取る。
- (c) 樹冠外部の当年生の春の梢の中部の葉を調査する。第四から第六の葉を取る。株ごとに四つの方向から樹冠外部の一年生の枝を取る。枝ごとに 3 枚の葉を選ぶ。
- (d) 果実の梗あ、がくあについて、図 B.1 を参照ください。
- (e) 果実の果皮部を調査する。



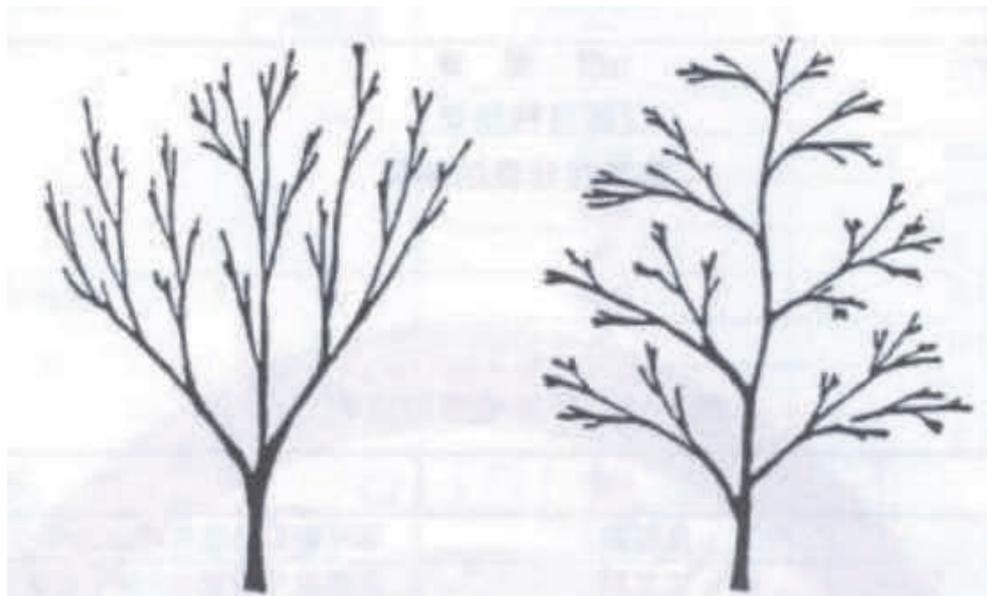
説明：  
 ab—がくあの幅；                      ac—がくあの深さ  
 ef—梗あの幅；                         fh—梗あの深さ。  
 図 B.1 果実の梗あ、がくあの見取り図

### B.3 個体の形質に関する解釈

形質の階級とコードについて、表 A.1 を参照ください。

形質1 樹体：樹勢、樹冠外部から一年生枝を切って調査する。

形質3 分枝型の品種のみに適用する。樹体：姿。図 B.2 を参照ください。



直立  
1

開張  
2



下向  
3

下垂  
4

図 B.2 樹体：姿

形質8 蕾：色、蕾がまもなく咲くが、雌しべ、雄しべが見えない場合、樹冠外部の短い枝の中心花を調査する。

形質9 開花始期、全樹木の5%の中心花が咲く時期を調査する。

形質 11 花：花弁の重なり。図 B.3 を参照ください。



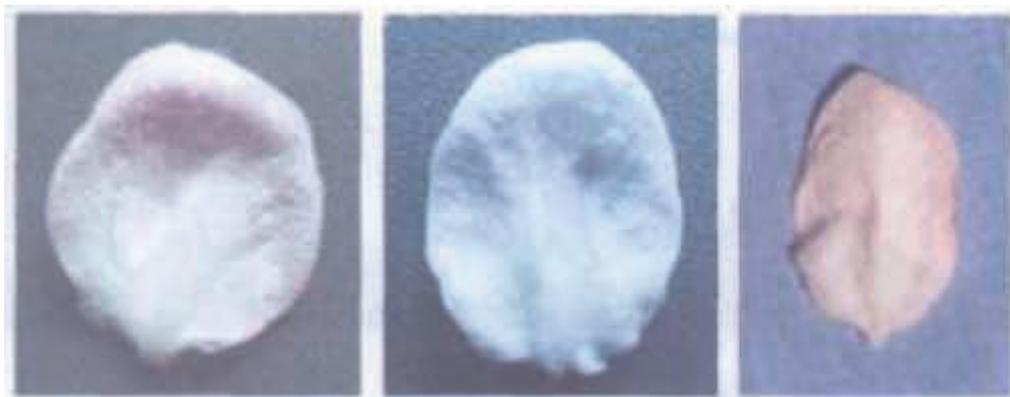
離れる  
1

中間  
2

重なる  
3

図 B.3 花：花弁の重なり

形質 12 花：花弁の形、図 B.4 を参照ください。



円形  
1

卵円形  
2

扁球形  
3

図 B.4 花：花弁の形

形質 13 葉：葉身の向き、図 B.5 を参照ください。



上向  
1

水平  
2

下向  
3

図 B.5 葉：葉身の向き

形質 18 葉：周縁の鋸歯の形、図 B. 6 を参照ください。

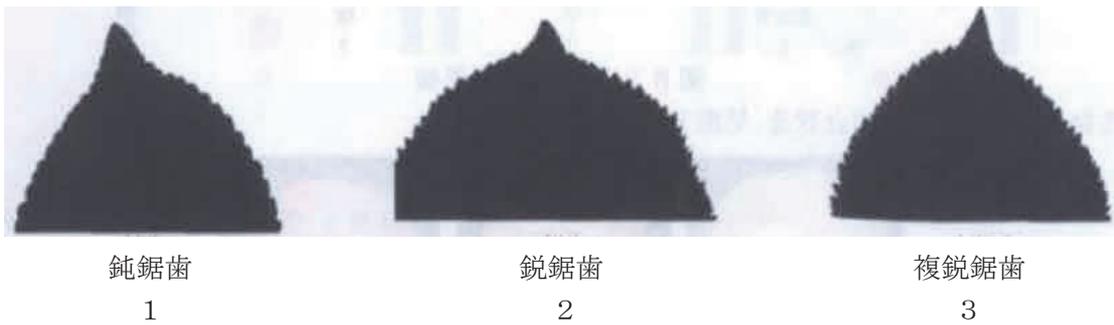


図 B. 6 葉：周縁の鋸歯の形

形質 20 葉：姿、図 B. 7 を参照ください。



図 B. 7 葉：姿

形質 26 果実：形、図 B. 8 を参照ください。

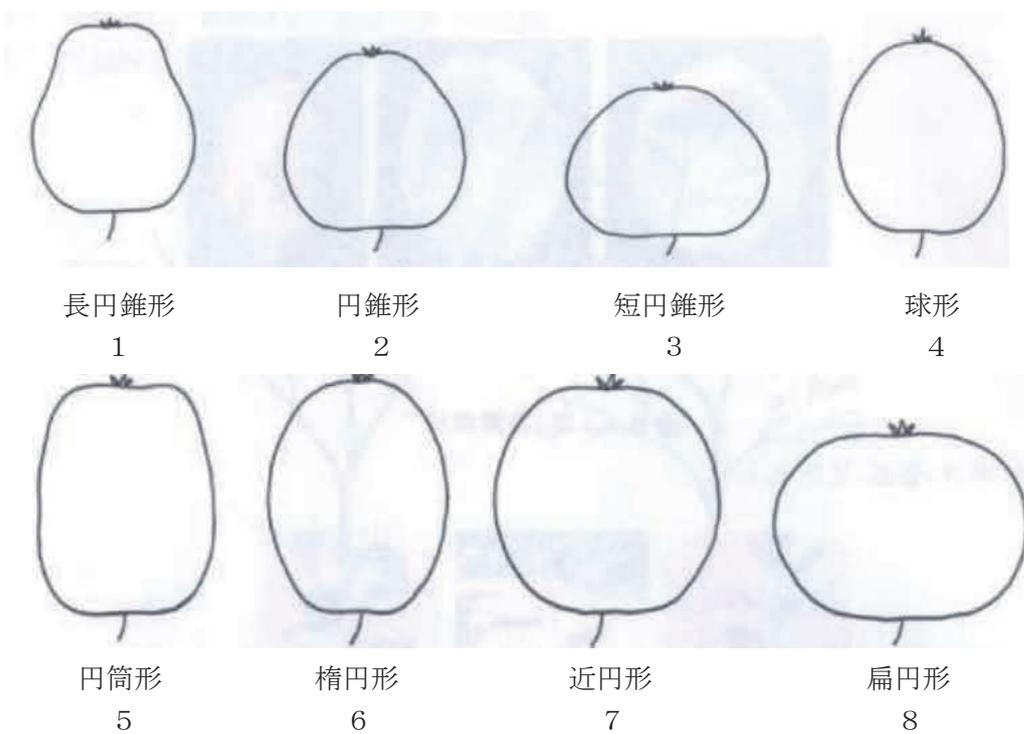


図 B. 8 果実：形

形質 28 果実：頂の角張りの強弱、図 B. 9 を参照ください。



無又は弱  
1

中  
2

強  
3

形質 31 果実：がくの開閉、図 B. 10 を参照ください。



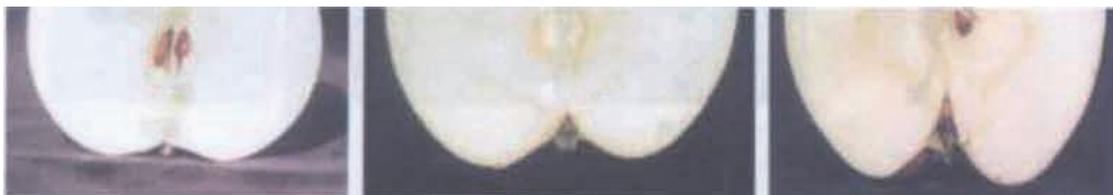
閉  
1

半開張  
2

完全に開張  
3

図 B. 10 果実：がくの開閉

形質 32 果実：がくあいの深さ、図 B. 11 を参照ください。



浅  
3

中  
5

深  
7

図 B. 11 果実：がくあいの深さ

形質 33 果実：がくあいの幅、図 B. 12 を参照ください。



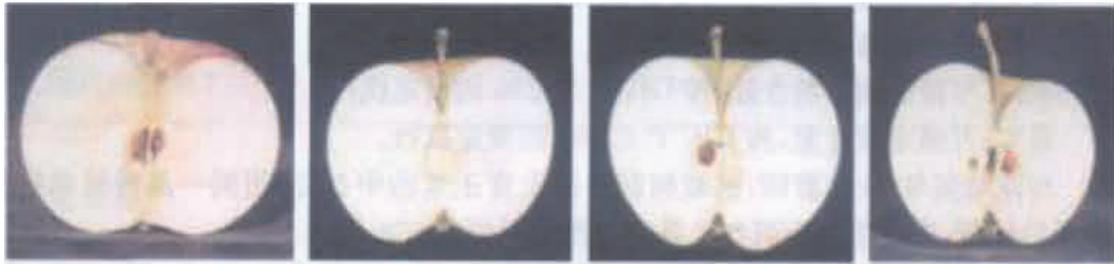
狭  
3

中  
5

広  
7

図 B. 12 果実：がくあいの幅

形質 34 果実：果柄の長さ、図 B. 13 を参照ください。



短  
3

中  
5

長  
7

極長  
9

図 B. 13 果実：果柄の長さ

形質 36 果実：梗あいの深さ、図 B. 14 を参照ください。



浅  
3

中  
5

深  
7

図 B. 14 果実：梗あいの深さ

形質 37 果実：梗あいの幅、図 B. 15 を参照ください。



狭  
3

中  
5

広  
7

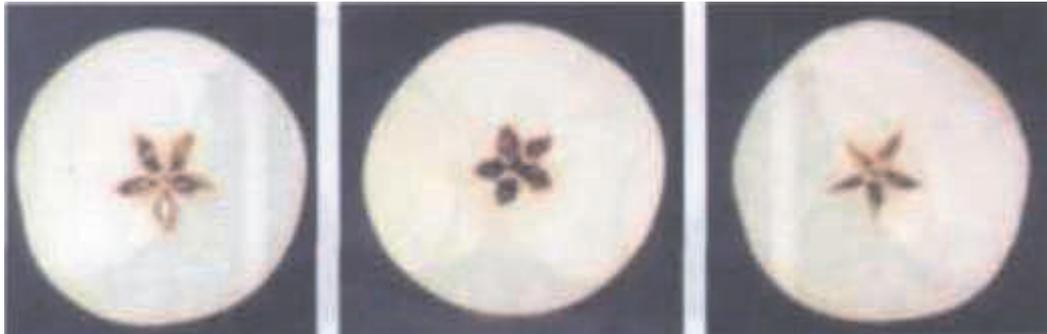
図 B. 15 果実：梗あいの幅

形質 51 果実：果肉の硬さ、果実の硬さで初めて摘み取った果実の日の当たる部分の果皮を除いた硬さを計算し、その平均値を求める。

形質 52 果実：蜜の多少、口で果肉を味わう。

形質 54 果実：果心の大きさ、果心中部から横切る。そして子室先端から果実の直径に到達する対応の位置を測る。果実半径  $1/3$  より小さい場合は小。果実半径  $2/1$  より大きい場合は大。

形質 55 果実：子室の型、図 B. 16 を参照ください。



閉  
1

中程度に開く  
2

広  
3

図 B. 16 果実：子室の型

形質 56 成熟期、果実が品種特有の風味を表す時期。

形質 57 果実発育期、満開期後、果実が品種特有の風味を表す日数。

形質 58 果実：果肉の硬さ、口で果肉を味わう。

形質 59 果実：溶解可能の塊含有量、GB/T 12295 の規定によって実行される。

形質 60 果実：滴定酸度の含有量、GB/T 12293 の規定によって実行される。

形質 61 自花結実率、蕾期において、樹冠外部から生育が正常な中心花を選択し、同一品種の花粉で受粉する。そして果実用袋で隔離する。結実が始まった後、袋を外す。生理的に落果後、結実率を調査する。少なくとも 200 枚の花を調査する。